

令和7年4月25日

都道府県高等学校野球連盟
審判委員の皆様へ

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

「甲子園から全国へ～第97回選抜高等学校野球大会」

今大会は天候に恵まれ、第91回以来の雨天順延のない大会となりました。

今シーズンから取り入れたハーフスイングの「指差し」やファウルライン付近の飛球の捕球時の「指差しポイント」など「新たなジェスチャー」を実践した大会となりました。

また、目を紫外線から守るため、申し出制に変更されたサングラスについては、選手のほか審判委員や監督が着用する場面もありました。

タイブレークは3試合あり、9回換算の試合時間は2時間6分（96回大会2時間2分）でした。

今年の「重点指導事項」および「周知徹底事項」を踏まえ、今大会での気付いた点や指導事項等を以下の通り共有致します。

1. マナーについて

- (1) ベースコーチや打者走者が「セーフ」のジェスチャーをする行為。
- (2) 自チームを鼓舞する（煽る）、過度なガッツポーズ。
- (3) 牽制球の多投、投手板から軸足を外すだけの行為の多用。
- (4) 打者が投球時に投手を幻惑する行為。
- (5) 捕手が投球を捕球する際にミットを動かす行為が散見されましたが、捕手の構える位置（本塁の直後）については良好でした。

2. 規則に関する事項について

- (1) プレイによりユニフォームが大きく裂けてしまった際の対応。
【公認野球規則 3.03(e)】
- (2) 一塁へ向かう後半を走る際、ファウルラインの内側を走る行為。
【公認野球規則 5.09(a)(11)】

3. 投手の投球動作について

課題となる事例はありませんでした。

4. 試合進行について

- (1) 捕手が投手のもとへ行くケースは1試合平均2.4回（96回大会2.1回）でした。
- (2) 高校野球らしい攻守交代のスピード感や投手の投球テンポなど、全国の模範となる試合が多くありました。

5. 審判技術の課題

- (1) 新たなジェスチャーへの挑戦。
- (2) フォースプレイ、タッグプレイともに判定精度の更なる向上。

以上